

～日常生活における人権チェックリスト～

普段、人権ということを意識することなく過ごしていると、私たちは知らず知らずのうちに誰かの人権を侵害してしまっていることがあります。また、人権を侵害している側は、その行為が相手にとって深刻な問題であると感じていない場合もあります。誰もが幸せに暮らすためには、人権という視点から普段の生活を見ていくこと（点検と気づき）、そしてそのような意識を持ち続けることが大切です。

次の各文を読んで、あなた自身の行動として「はい」か「いいえ」に○印をつけ、普段の生活をもう一度見つめ直してみましょう。

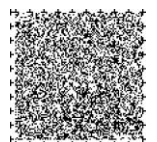
「該当しない」「そのような場面がない」などのときは、あなたがその場面に出会ったときにどうするか考えてチェックしてみてください。

家庭で



(回答欄)

1. 自分以外の家族あてに送付された郵便物や電子メール、携帯電話の履歴等を勝手に見ないようにしている。はい・いいえ
2. 子どもの意見（進学、就職、結婚についてなど）を無視したり、「あの子とは遊ばないようにしなさい」と子どもの交友関係を妨げたりせず、子どもの意見を尊重している。はい・いいえ
3. 子どもを叱るとき、大声で怒鳴ったり、身体を叩いたりしないようにしている。はい・いいえ
4. 「高齢者だから」という理由だけで、「もう年なんだからあまり外を出歩かないで」など、一方的に制限を加えたりせず、高齢者の意見を尊重している。はい・いいえ
5. 「男の子なんだからしっかりしなさい」「女の子なんだからお手伝いしなさい」など、男はこうあるべき、女はこうあるべきと決めつけた発言をしないようにしている。はい・いいえ
6. 夫婦・恋人間において、喧嘩けんかで手をあげたり、友達付き合いや電話を厳しく監視するなどしないようにしている。はい・いいえ
7. 掃除、洗濯、食事のしたく・片付け、ゴミ出し等の家事や地域活動への参加など、性別・年齢に関係なく家族の一員として、協力している。はい・いいえ



地域社会等で



(回答欄)

1. 近所の人と会話するとき、他の家のプライバシーに関わること（勤め先や子どもの進学先など）は話題にしないようにしている。

はい・いいえ

2. 駅でお年寄りが階段の上り下りや切符の購入に困っているとき、また外国人がどの電車に乗ったらいいか分からず困っているときなど、積極的に声かけを行い、必要に応じて手助けをする。

はい・いいえ

3. 車いすを使っている人が建物の出入りなどで困っていたり、視覚障害のある人が横断歩道を渡れず困っていたら、「お手伝いしましょうか。」など声をかける。



はい・いいえ

4. 聴覚障害のある人や高齢者が駅の構内や電車内のアナウンスが聞こえず困っていたら、身振りや筆談などにより手助けをする。

はい・いいえ

5. スーパーなどで駐車場が満車であったり、急いでいるときでも、障害のある人が利用できるように障害者用駐車区画に停めないようにしている。また、点字ブロックの上には自転車やバイク等を停めないようにしている。

はい・いいえ

6. インターネットのホームページや掲示板に、根拠のないうわさや悪口など、人を傷つけるようなことを書き込まないようにしている。



はい・いいえ

7. 高齢運転者マーク、身体障害者マーク、聴覚障害者マークをつけている車に対して、信号のない交差点では先を譲る、駐車場で手間取っていてもイライラせず待つてあげるなど思いやりを持って運転している。

はい・いいえ

高齢運転者マーク



身体障害者マーク



聴覚障害者マーク

